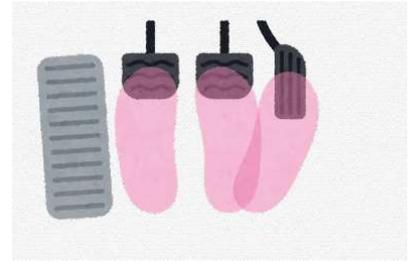




○「半クラッチ」

クラッチとは何か今の高校生で知っている人は少ないと思います。一方、アクセルやブレーキと言えば、車のペダルだとわかる人は多いと思います。クラッチも車のペダルの一つです。オートマ限定免許というものがなく、オートマの車を買う場合は車の値段が高くなった私の世代では、自動車学校の教習で、半クラッチがうまくできず、坂道発進がある教習ではとても緊張したことを覚えています。



教員を長く続けていると、異動ルールというものがあるため、何度も転勤を経験することになります。転勤は、精神的な負担(ストレス)を抱える理由の一つになります。私も、大学卒業時から数えて、三刀屋高校で13回目の転勤になります。そのうち1年での転勤が4回ありました。そのうち8回が引越しを兼ねての転勤でした。

転勤では、それまでの慣れ親しんだ職場環境や人間関係と分かれて、全く新しい世界に身を置くことになります。引越しが伴う転勤だと、生活環境や日常の人間関係も新たに整えついていかないとはいけません。これだけでもかなり精神的な緊張を要することになります。

大学4年間は、まだ瀬戸大橋も開通していない、フェリーで本土と行き来するしかない四国で過ごしました。隠岐への転勤も2度経験しました。陸路で歩いて本土にいけない環境のため、精神的な隔絶感、孤独感、孤立感、寂寥感(せきりょうかん)を覚え落ち込んだこともあります。

3年生が卒業して新しい環境に身をおく春はすぐそこです。高校入学時に味わったストレスとは、また違ったストレスを感じる人がほとんどだと思います。新しい環境にすぐ順応しようとすると、その反動が例えば五月病となって跳ね返ってくる場合があります。

新しい環境にすぐ順応しようというのは、羽田空港などにあるような歩く(動く)エスカレーターに飛び乗る感じです。新しい環境には、そのモードがあり、歴史があり、積み重ねがあり、ルールがあります。停まっているエレベーターに乗る感じではありません。なので、飛行機で言えば滑走路を長く取る意識が大事です。新しい環境に落下傘をつけて真上から急降下して着地しようとするのではなく、自分と地面(新しい環境)との距離を少しずつ縮めながら、ゆっくりと長く滑るように着陸する感じでいく意識やゆとりが必要です。

東京の大学に進学した高校時代の友人の何人かが、環境になじめず島根に帰ってきました。ある友人は、「(お店で)これください。」「(遊技場で)両替してください。」「(銭湯で髪を洗うと割り増し料金となるため)髪洗います。」の3つの言葉しか東京で使わなかったと言っていました。彼は、順応しようと焦り躊躇している間に降りるタイミングを失ったのかもしれませんが。

半クラッチというのは、オートバイやマニュアル車を発進させる時、ギアをローに入れて、エンジンの回転をタイヤに伝えていく、初期の微妙なギアのかみ合わせをいいます。ゆっくりとエンジンの回転軸を、タイヤの車軸にかみ合わせていくことで、バイクや車が動き出します。これがうまくいかないとエンスト(エンジンストップ)してしまい、バイクや車は発進できません。坂道発進ではエンストすると後ろに下がってしまうので、補助ブレーキも使いながらの操作になります。

新しい環境や新しい人間関係になじんで行こうとする場合には、この半クラッチの状態を大事にしないといけないと思っています。新しい環境や相手の回転に、自分の回転をゆっくりかみ合わせていくのです。卒業する3年生のみなさん、ゆっくりゆっくりなじんでいきましょう。アフリカで言うポレポレ、車で言う半クラッチ、長い滑走路の意識で、あせらずスタートしていきましょう。